

ースタッフ紹介ー

役 職	スタッフ名
診療局長兼外科統括部長 兼消化器外科部長 兼がん治療センター長 兼医療安全管理室室長 兼臨床研修センター副センター長	種村 匡弘
小児外科部長 兼栄養管理センター長	飯干 泰彦
医 長	三宅 正和
医 長	若杉 正樹
医 長	野中 亮児
医 長	東 重慶
医 長	古川 陽菜
副医長	松本 謙一
医 長 (乳腺外科)	綱島 亮
副医長 (乳腺外科)	奥野 潤
非常勤医員	松田 大樹
非常勤医員	魚谷 倫史

ー概要ー

当センターの外科は消化器外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)と小児外科、乳腺外科から構成され、カンファレンスや送別会、歓迎会などの医局行事は一体で活動している。消化器外科は、2019年4月に種村が外科統括部長(現 診療局長)として大阪警察病院 肝胆膵外科より赴任し外科全体の管理・運営を行っている。2020年4月にはスタッフ2名、チーフレジデント1名が異動となり、今後も人事刷新によりフレッシュなパワーが注入されると期待している。さらに、2021年度からは富山大学 消化器外科との専門医研修プログラムの連携を開始、魚谷医師が2021年3月より入職した。大阪地域以外の地域との外科医教育交流の輪が広がり良い刺激となることを大いに期待している。

年間の全麻手術件数は約600例(乳腺外科症例を除く)まで漸増してきており、胃癌、大腸癌、肝胆膵領域の高難度手術症例数も増加傾向である。また、これまで懸案であった急性期医療に対しても外科と救命診療科との連携を強化し、緊急手術が必要な急性腹症、高度腹部外傷の患者の受け入れも積極的に進めていきたいと考えている。2021年には地域の開業医からの急性腹症の受け入れを促進すべく『急性腹症ホットライン』を新設した。このホットラインでは消化器外科医が直接、電話対応し紹介患者の受け入れ可能か否かを即座に判断するシステムを構築した。

診療内容は各専門グループ別に述べる。

◇ 上部消化管:古川(医長)、東(医長)

上部チームとして、胃癌手術症例は年々増加傾向であり2021年では66例であった。当センターでは腹腔鏡手術に注力しており腹腔鏡手術割合は約80%であった。当科ではほぼ全ての胃癌症例において腹腔鏡手術を導入しており幽門側胃切除術、胃部分切除術にとどまらず、胃全摘術、噴門側胃切除術においても腹腔鏡手術を導入している。また進行胃癌においても安全性を十分に担保できると考えられた症例には積極的に腹腔鏡手術を行っている。さらに、食道胃接合部癌に対しても胸腔鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲手術を実施し術後成績の向上に努めている。手術前日に入院していただき、術後は平均9～12日で退院できている。

◇ 下部消化管:三宅(医長)、野中(医長)

2021年度の大腸癌手術の約85%は腹腔鏡下手術で実施された。新しい手術手技として肛門に近く、比較的小さな癌に対しては経肛門的に直腸内を二酸化炭素で広げ、カメラ画像を見ながら鉗子で直腸腫瘍を切除する内視鏡下手術(経肛門式内視鏡下手術:Transanal minimally invasive surgery; TAMIS)を実施している。さらに直腸癌に対する腹腔鏡手術では骨盤内での手術操作が必要とされる。当科では経肛門的直腸間膜全切除術(Transanal Total Mesorectal Excision; TaTME)を導入し、腹腔側および経肛門的アプローチを同時に行うことで、腹腔側アプローチだけでは剥離操作が困難である骨盤深部の操作をより適切な剥離層で行い、安全で、癌根治性の高い直腸癌手術を行っている。

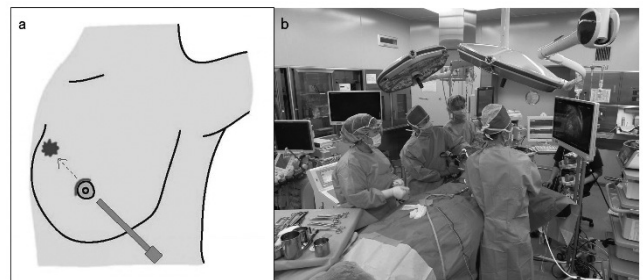
今後は、上部・下部消化管を通してDa Vinciサージカルシステムによるロボット手術を導入する予定である。

◇ 肝胆膵:種村(診療局長兼外科統括部長兼消化器外科部長)、若杉(医長)、松本(副医長)

肝胆膵領域癌、胆石および鼠径ヘルニアの外科診療を行っている。2021年度は32例の高難度手術を実施できた。現在、日本肝胆膵外科学会の高度技能医修練施設に認定されるべく申請している。また、KHBOをはじめ阪大 肝胆膵疾患グループの多施設共同研究に積極的に参加することで先進集学的治療の確立に取り組んでいる。さらに膵癌症例において低侵襲で、予後・治療効果の正確な予測に有効なバイオマーカーとなり得るリキッドバイオプシーとして、生きたCirculating Tumor Cells (CTCs), Peritoneal Lavage Tumor Cells (PTCs)の検出・解析を行っている。今後は癌細胞検出においてAI駆動の画像解析装置を開発しており、より正確で、迅速に検出できる画像解析システム構築を目指す。当センターから新しいエビデンスを発信できるオンリーワン研究を進めていきたいと考えている。

◇ 乳腺外科:綱島(医長)、奥野(副医長)

乳腺グループでは、主に乳がんの診断、治療を行っている。手術では根治性と整容性(美容性)の両立を目指して、形成外科医の協力のもと乳房再建手術にも積極的に取り組んでいる。さらに2021年からは傷が目立たない場所に切開を置いて行う、乳腺内視鏡手術も導入した(下図)。手術以外の治療法としてエビデンスに基づいた薬物療法(抗がん剤治療や分子標的治療、ホルモン療法など)も広く行っている。患者自身が病状やライフスタイルに合った治療を選択できるように、できる限り寄り添っていく診療を目指している。



a. 傷が目立ちやすい腫瘍直上を避け、乳輪周囲を切開して行う。
b. 実際に当院で乳腺内視鏡手術を行っている様子。

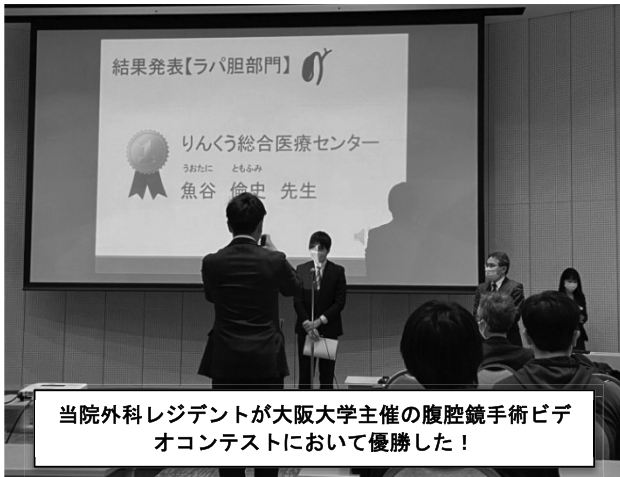
◇ 教育・若手育成について

当科では2名の外科専門医プログラムのレジデントと1～2名の初期研修医が研修している。手術手技の習得に向け、単に手術を見学するだけでなく、できるだけ多くの手術症例への手

術参加、執刀を積極的にさせている。また、当センターでは筆頭発表での学会参加、論文作成も指導し投稿費用のサポートがありアカデミックワークも積極的に指導していく方針であり、文武両道による若手医師の指導・育成にあたる所存である。

た、腹腔鏡での手術アプローチ実施率を維持し低侵襲手術の推進を図っていきたくと考えている。

我々は、当センター外科をどのように「One Team」にするかが大事であると考えている。りんくう総合医療センターとして臨床的・学術的活動の中身をしっかりと吟味し、共有することで「真のOne Team」にまとめ、発展していきたくと考えている。



当院外科レジデントが大阪大学主催の腹腔鏡手術ビデオコンテストにおいて優勝した！

【外科メンバー集合写真】



【外科手術(肝胆膵外科)】



【外科レジデント執刀の手術風景】



—実績—

【手術実績】

上部 (食道・胃・十二指腸)		ヘルニア	
食道癌	5	鼠径ヘルニア	75
胃悪性腫瘍	66	腹壁癒痕ヘルニア	4
胃・十二指腸潰瘍・その他	5	大腿ヘルニア	8
計	76	その他	4
		計	91
下部 (小腸・大腸・肛門)		乳腺甲状腺	
結腸癌	52	乳癌	55
直腸癌	49	乳腺腫瘍	8
その他悪性腫瘍	6	甲状腺癌	1
小腸・大腸粘膜炎腫瘍	1	甲状腺腫瘍	1
その他	27	その他の甲状腺疾患	0
計	135	計	65
虫垂炎		小児外科	
急性虫垂炎	29	鼠径ヘルニア	24
肝胆膵		臍ヘルニア	14
肝細胞癌	8	虫垂炎	6
胆道癌	6	その他	1
転移性肝癌	5	計	45
胆石・胆嚢炎	88	脾・その他	
膵癌・十二指腸乳頭部癌	16	脾・腹膜炎・その他	10
その他	8	総計	
計	131	591	
イレウス			
イレウス	9		

—今年度の成果と今後の改善点—

消化器外科診療については、胃癌、大腸癌、肝胆膵領域癌の手術件数に対してはコロナ感染爆発の影響は少なかった。2020年度ではコロナ感染症の院内への持ち込みを予防すべく夜間救急外来を一時閉鎖した。しかし、2021年度は夜間救急外来を閉じることなくコロナ感染爆発を乗り越え、近医からの紹介症例をもれなく受け入れる体制を死守できた。

学術活動については、今後のさらなる奮起が求められる領域である。消化器外科在籍人数に対して学会発表、論文発表が少ないのが問題であると考えている。新年度はより外科学会、消化器外科学会、臨床外科学会などを基軸に活発な学術活動を指導していく所存である。

—来年度への抱負—

安心・安全で、信頼できる医療を提供すべく、消化器外科全体としての目標症例数は600～620例/年を目標とした。ま